

1. 折り鶴からはじまる小さな一歩 -主婦が作る個性的なアクセサリーの世界

司会:

時刻は、午後 5 時を回りました。本日午後 5 時台は集まれファーストペンギンニュービジネスザネクストステップをお送りします。この番組は、大村市産業支援センターセンター長宮本美砂様とゲスト様と集まり、企業経営について語り合う時間をお届けします。

ファーストペンギンのように最初の一步を踏み出すゲスト様のお話をお聞きしながら、リスナーの皆様へ、一步を踏み出す勇気をお届けいたします。

では改めまして本日のお客様は和華、大石華代様にお越しいただきました。

司会、大石、宮本:

こんにちは。よろしくお願いいたします。

司会:

そして、今日も大村市産業支援センターセンター長、宮本美砂様と 3 人でお届けしていきたいと思います。よろしくお願いいたします。今日は雨の中ありがとうございます。

司会:

大石華代さんには自己紹介をお願いしてもよろしいですか。

大石:

はい、和華（Wakka）で活動している大石華代と申します。主婦歴 13 年の男の子供が 2 人いるお母さんやっております。

司会:

お母さんなんですね。この和華の活動を始められたきっかけはあったんですか。

大石:

まだ子育てしてお兄ちゃんがもう 5 歳ぐらいかな。下がもう 2 歳ぐらいのとき、子供達をこれからどういうふうに育てていこうかな。私自身どうゆう子育てするかというのを考えました。

子供たちには、それぞれ魅力だったり個性が本当に豊かだと思いながら育てていたので、その個性をそのまま発揮してほしいなって思っているとき、私が背中を見せるみたいな感じが一番のわかりやすい、見せるスタイルでやろうと思いました。

そこで私の個性だったり得意なことが、折り紙でちっちゃく折り鶴を折ることだったので、小さな指で折る折り鶴をアクセサリーにしていこうって思ったのが 8 年ぐらい前ですかね。

司会:

ウワッー素敵ですね。

宮本:

自ら何かを始めて、それを子供たちに背中であげていきたいなっていうところは、本当に素敵ですね。

大石:

いやいや、なかなか言葉で伝えきれない性分が私にあって、もう見せるだけです。

司会:

素晴らしい。折ってらっしゃる鶴に大石様のパーソナリティといいますか、らしさが、そんな人となりが出てますよね。

宮本:

ほんとかわいらしくて、目を引くんです。うわーって感じなんです。今センターに飾ってます。一番上の目につくところに、お守りのように。それと、記事と一緒にね。

司会:

今はどんなものを作ってらっしゃるんですか。

大石:

2.5 センチの小さな小さな折り紙は、和紙だったり千代紙だったり、紙の模様や柄がかわいくなっていうところをちょうど羽根のところに出来るようにと考えて計算しながら作っています。小さな折り鶴をシンプルにピアスだったりイ

ヤリングであったりって感じで、あと好きなパールをちょっと添えてみたりしてます。

司会：
これをしようと思っても簡単にできないですね。

宮本：
今、改めて 2.5 センチとお聞きしてそこから折り鶴とは！ 針か何か使われますか。

大石：
いやいや本当に指だけ。もうなんか指先でピッピッと綺麗に揃う、根羽がピシッと三角になったり、口先くちばしが
びってなったり。

宮本：
揃いますか？

大石：
それが好きなんです。揃えたいっていうそっちの欲求の方が。

宮本：
始まる前も几帳面な方だってお話してましたけど、普通羽は 10 センチ角でも揃わないですよ。くちばしも揃わないです。ぐちゃぐちゃって結構ごまかして、いいか みたいな感じになります。

司会：
私も。

宮本：
2.5 センチ角で指だけですごいですね。

大石：
なんかねそっちの方が燃えるというか。

司会：
この 2.5 センチはポイントなんですか。

大石：
いろいろチャレンジして、1 センチでやってみたり、もっとちっちゃくても全然できるんですけど、アクセサリーに
すると、破けやすかったり、小さすぎて自分の中でかわいいかなみたいなのがちょっと来ないので。それに 2.5cm
が本当に後切りやすかったんです。普通の大きい折り紙の 4 分の 1 にしたサイズを 9 分の 1 にするのが綺麗に行く
んです。切りやすいんですよ。綺麗に切れると思ってです。

宮本：
ちょっと明日センターでやってみようかな。まず 2.5 センチ角に切ると、どっかが斜めになりますね。

大石：
集中している時間も結構好きなんです。好きなものを何も考えてないで、ただ綺麗に切るとか、綺麗に揃えるとか、
それだけで集中しているのが、なんかもう全部をいろいろ忘れるんですよね。

司会：
集中できる時間なんですね？
一つの鶴を折るのにどのぐらいの時間がかかるんですか？

大石：
折る作業自体は結構紙にもよってくるんですけど、5 分から 10 分ぐらい。

司会：
すごいですね。これまた。
今日もそのイヤリングってつけてらっしゃって、とてもお似合いですね。

宮本：
素敵ですね。

大石：
ありがとうございます。

宮本：

身につけていたら必ずと言っていいほどお声かかるんじゃないんです？

大石：

そうですね。お店のレジの方とか、「それ鶴ですか？」みたいな。「そうです」とこたえるとお互いにびっくりします。

宮本：

それどこで売っていますか、とか聞かれないですか？

大石：

そういうときもありますね。そのときはインスタグラムを教えて、そちらからメッセージくれたら、またこちらから連絡しますって言ってます。

司会：

インスタグラムはどのように検索したら拝見できますか。

大石：

@Wakka.アクセサリーで検索したら大丈夫です。

司会：

かしこまりました。今日はたくさんお話をできたらと思っております。